

国立大学法人東京農工大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

東京農工大学は、「使命志向型教育研究 - 美しい地球持続のための全学的努力」(MORE SENSE : Mission Oriented Research and Education giving Synergy in Endeavors toward a Sustainable Earth) を基本理念として掲げ、自らの存在と役割を明示して、21世紀の人類が直面している課題の解決に取り組んでいる。第2期中期目標期間においては、教育研究力の強化により、国際社会で指導的な役割を担える高度な能力を持つ人材の育成等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、大学院生物システム応用科学府と上智大学大学院地球環境学研究科との大学院間交流をはじめとした他大学との連携の強化、産学連携のさらなる推進等、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2 項目別評価

・業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(組織運営の改善、 事務等の効率化・合理化)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

「教育力と研究力に秀でた質の高い女性研究者の育成」を目指し、平成 24 年度には 5 名の女性教員を採用し、さらに平成 25 年 4 月から 3 名の採用を決定するなど、女性教員の積極的な採用を行うとともに、「女性未来育成機構」に所属している女性教員の育成のため、メンター教員を配置し「教育力向上プログラム(キャリア加速)」及び「研究力向上プログラム(キャリア開発)」を実施している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 15 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、 経費の抑制、
資産の運用管理の改善)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

産官学連携・知的財産センターにおいて、45歳以下の若手教員（全教員中39.9%）を意識した「研究資金獲得に向けた懇談会」を開催し、外部資金獲得に実績のあるベテラン教員が講演を行うとともに、若手教員の外部資金獲得のための技術発表・展示会参加を支援しているほか、希望する若手教員にはベテラン教員等による申請時の添削等の直接的指導を実施しており、この直接的指導を希望した教員の外部資金獲得額は1億3,952万円（対前年度比739万円増）となっている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(評価の充実、 情報公開や情報発信等の推進)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

大学の就学環境、進学・就職、研究等の状況や、各学部・学科の教育方針に関する広報活動の一環として、3年次生の保護者を対象に「ペアレンツデー」を実施（参加者数502名）し、実施後のアンケートでは95%以上の保護者から支持を得ていることから、平成25年度以降も実施していくこととしている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(施設設備の整備・活用等、 安全管理、 法令遵守、
情報システムの整備充実と運用改善)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

共有スペースについて、利用状況を踏まえた見直しを行うとともに、教員の退職等により生じたスペースを共有スペースとし、新規プロジェクト等の重要施策に対して計画的かつ戦略的に利用できるよう管理を行った結果、平成24年度における共有スペースの総面積は26,918㎡（対前年度比2,234㎡増）、学内・学外に対する貸付による収益は3,407万円（対前年度比193万円増）と増加している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 12 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成 23 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

・教育研究等の質の向上の状況

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

世界を舞台に高い専門性と幅広い視野を有し、構想力と実践力を備えた国際的なリーダーを育成・輩出する大学院として相互に発展することを目指し、大学院生物システム応用科学府と上智大学大学院地球環境学研究科との間で「大学院間交流に関する協定書」を締結し、相互単位互換及び特別研究学生の交流等を行うこととしている。

米国の非営利科学研究所「SRI インターナショナル」と教育連携・プログラムの開発等を目的とした連携協定を締結し、「SRI インターナショナル」におけるイノベーション海外研修（大学院生 10 名が参加）や、連携企業と協力して大学院生を対象としたワークショップを開催するなど、イノベーション人材の育成体制の構築及びイノベーション推進プログラムの充実を図っている。

「博士課程教育リーディングプログラム」による「グリーン・クリーン食料生産を支える実践科学リーディング大学院の創設」に向け、国際連合食糧農業機関（FAO）との教育連携に関する協定書の締結に向けた協議や、国内外の関係者によるキックオフシンポジウムを実施している。

産官学連携・知的財産センターにおいて、国際的な産官学連携の推進のため、研究打合せや経費等契約打合せのための渡航旅費及び招へい旅費を補助する海外共同研究発展ファンドを立ち上げるなど、教員の国際活動の底上げを図り、国際共同研究の創出に向けた環境を構築している。

大学のグローバル化の観点から、日本人学生と留学生が交流する「グローバルカフェ」を平成 25 年 4 月に開設することを決定し、学生企画による様々な国際交流イベントや、大学教育センターや国際センターによる異文化交流体験、学生のコミュニケーションスキルを高めるプログラム等の準備・検討を行っている。